

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 児童生徒の発達段階を的確に把握し、自立に向けて可能性を伸ばすことができるよう、合理的配慮を取り入れながら個に応じた教育活動を行う。
- 2 児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育及び道徳心・社会性の育成を図る。
- 3 健康で安全な生活習慣の向上を図り、安全安心できれいな学校づくりを進める。

2 中期的目標

- 1 地域・保護者の信頼に応えた「安全で安心な学校」の創造
 1. 安全で安心な学校となるように防災、防犯の取組みを推進する。
 2. 人権が尊重され誰もが過ごしやすい学校づくりを進める。
 3. 地域との連携と支援を充実する。地域高齢者施設と連携した校外活動（清掃）の内容を拡充する。[R3：車いす清掃、R4：周辺地域清掃、R5：居室を含めた施設内清掃] センターの機能を発揮し地域小中学校、高等学校などからの支援要請に応じていく。[R3：300件、R4：310件、R5：320件]
- 2 児童生徒の健康を守り豊かな学びを育てる学校生活の創造
 1. ICTを活用した授業の進め方を研究し授業を活性化し、保護者によるアンケートの満足度を向上する。[R3：64%、R4：65%、R5：70%]
 2. キャリア教育を充実し、高等部卒業後の職業的・社会的自立に向けた支援体制を進める。新たに中学部からの職業体験実習に取り組む。[R4：5件]
 3. 新型コロナウイルス感染予防対策を充実し、食の安全を守り、アレルギー対策や医療的ケア体制の充実を図る。[R3：70%、R4：75%、R5：80%]
- 3 働き方改革の観点から教職員の健康管理に取り組む
 1. 各業務の見直しを行い、教職員の業務負担軽減を図る。
 2. 健康を維持し、働くことの楽しさや充実感を感じられる職場環境を構築する。教員アンケートの満足度を向上する。[R3：70%、R4：75%、R5：80%]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見															
<p>1. 回収率（1月16日現在） 【保護者】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学部</th> <th>中学部</th> <th>高等部</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提出者（名）</td> <td>95/103</td> <td>97/111</td> <td>131/171</td> <td>323/385</td> </tr> <tr> <td>回収率</td> <td>92.2%</td> <td>87.4%</td> <td>76.6%</td> <td>83.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 考察</p> <p>○保護者回収率は、昨年度より0.1%減少。教職員は89.7%と昨年度の100%から約10%減少した。教職員の減少については、マークシート型からオンライン型に変えたことによる操作の不具合による。</p> <p>○「肯定的な評価」の高かった項目（A+B=90%以上の項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の内容・学校生活の様子を、懇談や学級（学年・学部）通信、連絡帳等によって知ることができている。 ・体育・運動の授業を通して、意欲的に運動する習慣を身に付け、体力の向上に向けて取り組みが行われている。 ・日直や給食当番等の係活動に、継続して取り組む機会を設けている。 ・生野支援学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。 ・学校は、「個別的教育支援計画」の意義や内容について、説明をしている。 <p>○「否定的な評価」の高かった項目（C+D=10%以上の項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設設備は、学習環境面で整備されている。 ・学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている。 ・卒業後の進路について考える機会を設定し、校内・校外実習を通して指導や助言を行っている。（高等部のみ） <p>○「わからない」の回答率が高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業をはじめ、学校でICT機器（大型モニター、タブレット、パソコン等）を活用する機会が設けられている。（26%） ・学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている。（25%） ・アンケート等でいじめ（疑いを含む）に対する調査を行い、早期解決できる体制が整っている。（25%） ・PTA活動が活発に行われている。（19%） <p>≪昨年度の課題であった交流について、否定的評価に比べて肯定的評価が上がっている。今年度は演奏会やオンライン等の直接的な交流が再開できた。しかしながら、わからないとの評価も高いため、保護者への周知が必要である。施設設備の老朽化や教室不足による、防災・防犯面についての不安の声が昨年度に比べて高まった。洋式トイレへの改修や車いす用の階段昇降機の設置等、できる限りの改善をしていること。また、防災・防犯面については避難訓練やいくの防災デー等の取組みに加え、教職員の訓練を実施していることを保護者に周知することで、今後理解していただくことが課題である。PTA活動に関しては、様々な学校行事に参加していただくことで、全体の評価は上がっている。広報での活動報告によって、周知を今後も進める。≫</p>		小学部	中学部	高等部	全体	提出者（名）	95/103	97/111	131/171	323/385	回収率	92.2%	87.4%	76.6%	83.9%	<p>令和4年度テーマ「新型コロナウイルス禍で学校と地域との連携を深める」</p> <p>【委員】 大学教授、PTA会長、前PTA会長、近隣福祉施設長、地域住民代表等</p> <p>【日程】</p> <p>第1回 令和4年6月20日（月）10：00～12：00 第2回 令和4年11月7日（月）10：00～12：00 第3回 令和5年2月21日（火）10：00～12：00</p> <p>【形態】 集合型：授業見学を復活し、会議時間は短縮するように進めた。</p> <p>【各回の内容】 ⇒は委員からいただいたご意見の主なもの</p> <p>（1）令和4年度の運営体制の紹介。令和4年度学校経営計画（案）のめざす学校像と中期目標の承認。学校安全総合支援事業の紹介。等。</p> <p>⇒項目が整理されてきた。この計画に基づいて実践して欲しい。</p> <p>⇒「防災」袋を活用した個人備蓄の一層推進し、地域とも連携した学校安全の取り組み推進して欲しい。</p> <p>⇒新型コロナウイルス対策を進めながらも直接的な交流を進められないか？</p> <p>⇒教職員の健康を守り働き方を改革するべき。</p> <p>（2）「地域の小・中学校、高等学校等への支援」と「居住地校交流」の紹介。</p> <p>地域への支援ということには、学校訪問型の相談支援と支援教育に関する講座開設がある。地域の支援教育の力の向上を進めている。</p> <p>新型コロナウイルスの為に中止していた「居住地校交流」を復活した。</p> <p>⇒オンラインを活用して相談に乗ってくれるシステムも今後取り入れて欲しい。</p> <p>⇒地域校での学習内容を支援学校での取り組みにも生かして欲しい。</p> <p>⇒地域の学校と支援学校の両方で学ぶ場があるということは子どもにとってもプラスである。参加者にとっての目的を明確にしておくことが重要である。</p> <p>⇒今後は「地域連携」から「地域協働」に高めていくことが重要で、支援学校は「地域の中にある」という意識が重要である。</p> <p>（3）【令和4年度学校教育自己診断結果の報告】</p> <p>「ICTの活用」について、活用状況をホームページや通信で情報発信していくことを進めていく。「進路支援の充実」については、情報発信と共に生徒個人に合った進路支援ができるよう教職員全体の進路支援力向上に努める。</p> <p>【令和5年度 学校経営計画及び学校評価】</p> <p>⇒この計画に基づいて実践して欲しい。今後の学校づくりや新校舎移転に向けて、PTAをはじめとした保護者の方々、地域の方々との一層の連携が重要である。</p> <p>【提言事項】</p> <p>①ICT活用についての情報発信を引き続き取り組んで欲しい。</p> <p>②交流及び共同学習や地域との交流の機会について対面形式で実施できるよう進めて欲しい。</p> <p>③生徒個人や保護者のニーズに応えた進路支援に取り組んで欲しい。</p>
	小学部	中学部	高等部	全体												
提出者（名）	95/103	97/111	131/171	323/385												
回収率	92.2%	87.4%	76.6%	83.9%												

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1. 地域・保護者の信頼に応えた「安全で安心な学校」の創造	1. 安全で安心な学校となるように防災、防犯、感染防止の取組みを推進する。	<p>(1) 様々な自然災害に備えるための学校体制を充実するとともに、各種マニュアルを整備し実効性のある緊急時シミュレーションを実施するPTA、地域とも連携し、校内の危険を防止するための対策を進める。</p> <p>① 緊急時下校を想定して教職員による実践的な訓練を実施する。(1回)</p> <p>② PTAと連携し、防災の意識を高めるための防災学習を実施する。(1回)</p> <p>③ PTAも参加する避難訓練を実施する。(1回)</p> <p>④ 校内の備蓄品を点検し、PTAと連携して新たに個人備蓄品の整備を進める。</p> <p>⑤ 緊急一斉メールの加入率を向上する。</p>	<p>(1)</p> <p>① 緊急時の引き継ぎ訓練実施(1回)[1]</p> <p>② 研修実施回数(1回)[1]</p> <p>③ 合同避難訓練実施(1回)[-]</p> <p>④ 5月までに個人備蓄を整備し「いくの防災デー」を実施する。(1回)[1回]</p> <p>⑤ 「緊急一斉メール」アプリの加入率を教職員100%、保護者95%とする[99%、95%]</p>	<p>① 8月末に実施済(◎)</p> <p>② 今年度は講師と日程が合わず未実施。来年度に防災アドバイザーによる研修を予定(△)</p> <p>③ 880万人訓練に合わせて実施済(◎)</p> <p>④ 4月から業者に購入依頼したが、納入時期が7月になったため、夏季休業前に家庭に配布し、2学期より非常持ち出し袋として個人備蓄を開始。9月2日「いくの防災デー」を実施(○)</p> <p>⑤ 教員は99%、保護者は94%達成(△)</p>
	2. 人権が尊重され誰もが過ごしやすい学校づくりを進める。	<p>(1) いじめや人権侵害事象の起こらない学校づくりを進めていく。</p> <p>① 人権尊重の教職員研修を実施し教職員の理解を深める(年3回)</p> <p>② 各種ハラスメントについて理解を深め、相談体制を充実して各事象の起こらない安全な学校にしていく。</p>	<p>① LGB T Q、障がい理解、同和教育に関する研修を実施(3回)</p> <p>② ハラスメントをテーマにした研修を開催し、教職員の理解を深める(1回)</p>	<p>① 7月に障がい理解、同和教育に関する研修を実施(2回) LGB T Q については講師との調整が進まず未実施(△)</p> <p>② 10月に外部講師によるハラスメントをテーマにした研修を実施し全校の教職員で理解を深めた(1回)(○)</p>
	3. 地域との連携と支援の充実	<p>(1) 地域支援体制の充実 支援相談部を中心に域内の幼保小中高等学校からの支援相談を実施し、センター的機能を発揮する。</p> <p>① 支援教育講座を開催し地域への情報提供を行う。</p> <p>② 小中学校等のコーディネーターとの交流会を開催する。</p> <p>③ 交流および共同学習の機会を復活する。</p>	<p>(1)</p> <p>① 支援教育講座開催(オンライン含む)(3回)</p> <p>② 交流会開催(オンラインを含む)(1回)</p> <p>③ 学校間交流を充実し(3学部各1回)居住地校交流を再開する。[0件]</p>	<p>① 7月に支援教育講座開講(7回) 12月に大阪市南東ブロック合同地域支援講座を平野支援学校と合同開催(1回)(○)</p> <p>② 3月末に開催を検討したが日程調整が進まず未実施に終わった(△)</p> <p>③ オンライン型や集合型による学校間交流を実施(3学部各1回) 居住地校交流を再開(8件)(◎)</p>
		<p>(2) 校内支援体制の充実 支援相談部を中心として、福祉医療人材の活用を進める。支援相談(精神科医師)の時間を設けて、保護者と本人への支援を進める。</p> <p>① 姿勢保持や歩行に課題のある児童生徒、摂食時に工夫を要する児童生徒などの例を挙げて福祉医療外部人材への相談会と研修講座を実施し、個別の支援計画の記述及び、支援に生かす。</p> <p>② 精神面での不安を抱える児童生徒からの相談や保護者への支援を進める。</p>	<p>(2)</p> <p>① 外部人材(PT・OT・ST・臨床心理士)の活用を進める。各4回以上実施。</p> <p>② 支援相談(精神科医師)との面談を設けて精神医療面でのケアを進める。(計10回)</p>	<p>① 外部人材(PT・OT・ST)の活用を予定通り各4回実施。児童生徒個別の助言3回に加えて、教職員への講義を各1回実施できた。臨床心理については各学部からの要望が強く回数(9回)を増やして対応した(◎)</p> <p>② 12月までに支援相談(精神科医師)との面談(6回)。受診希望が増加しているがDrとの日程調整が進まず目標達成できなかった(△)</p>

府立生野支援学校

	1. ICTを活用した授業の進め方を研究し授業を活性化する。	<p>(1) ICT環境を充実するとともに、個のニーズに合わせて合理的配慮のある授業を構築する。</p> <p>① 各教室の大型モニターの活用機会を増やす。</p> <p>② 授業へのICTの活用を進めて児童生徒にとって興味を持ちわかりやすい授業とする。</p> <p>③ ICTの活用をテーマに外部講師を招き研修を実施する。</p> <p>④ 臨時休業時にも活用できる教材準備を進めていく。</p>	<p>(1)</p> <p>① モニターを使用して始業式、終業式などを安全に実施する。(計6回)</p> <p>② ICTを活用した実践事例を各学部から収集し、事例データ集を作成して校内の教員へ共有する。(3学部×3例)</p> <p>③ 研修実施(2回)</p> <p>④ オンライン学習の体制を整備し家庭との連携を図り長期欠席者との遠隔授業を実施する。(各学部3回)</p>	<p>① 各教室にモニターテレビ設置済。式を校長室などから配信した。修了式も配信した。(計6回)(○)</p> <p>② ICT活用の実践事例を、各学部より収集したが、教員への共有までに至っていない。(△)</p> <p>③ 3学期にICT活用に関しての研修を、オンデマンド型で予定したが日程調整できなかった。(△)</p> <p>④ 遠隔授業に至らなかったが、文化祭の映像発表に長期欠席者が参加できた。(△)</p>
2、児童生徒の健康を守り豊かな学びを支える学校生活の創造	2. キャリア教育を充実し、高等部卒業後の就労に向けた支援を進める。	<p>(1) 社会に開かれた教育課程をつくり、より実践的なキャリア教育推進をめざす</p> <p>① 高等部の各コースの活動内容を精選充実し、学習に必要な物品を購入する。</p> <p>② 校内・校外販売学習と清掃学習に取り組む。</p> <p>③ 高等部卒業後の就労率を向上する。</p> <p>④ 中学部からの進路学習の充実。</p> <p>⑤ 全学部の保護者を対象に、進路指導に関する情報共有を事業所等と連携を図りながら実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>① キャリアアップ、ワーキング、チャレンジ、トライの各コースの学習内容を見直し、印刷機、掃除機、耕運機、延圧機など必要な物品を購入する。</p> <p>② 校内販売学習(1回) 校外販売学習(1回) 校外清掃学習(3回)</p> <p>③ 就労率を20%とする。[R1:14%、R2:7%、R3:10%]</p> <p>④ 中学部段階での校外体験実習の実施[5件]</p> <p>⑤ 進路説明会(1回) 事業所見学会(2回) 座談会(1回) 個別の情報提供(適宜)</p>	<p>① 耕運機は以前のものを修繕できた。延圧機は、購入希望を挙げている。印刷機は未定。(○)</p> <p>② 校内販売1回(○) 校外販売:「ふれあい祭り」がコロナの為中止となり未実施(△)ワーキングコースは校舎周辺や通学路、近隣公園の清掃活動を行った。(3回)(○)</p> <p>③ 就労率向上は未達成(△)</p> <p>④ 6月に3件実施、2月に5件実施済み計8回実施(◎)</p> <p>⑤ 進路説明会を5月に実施、2月に実施済み。PTA進路委員と連携をして、6月と12月に事業所見学を実施。座談会は日程調整がつかず未実施。(△)</p>
	3. 新型コロナウイルス感染防止対策及び食物アレルギー、医療的ケアの体制を充実させ健康で安全な学校生活の支援を進める。	<p>(1) 健康で安全な学校生活を送り体力の向上に努める。</p> <p>① 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底する。</p> <p>② 食物アレルギー事故防止対策を徹底する。</p> <p>③ 医療的ケア体制を充実し教職員も看護師と連携して医療的ケアを受け持つことができる体制を構築する。</p> <p>④ 安全な学校行事を企画し運営できる体制を構築する。</p>	<p>(1)</p> <p>① 手洗い、消毒の呼びかけと感染防止マニュアルの改訂を進める。</p> <p>② 給食時の安全対策を進めて、調理実習と各種行事での食物アレルギー調査を徹底する。</p> <p>③ 医療的ケアを実施できる教員を増やす(3人)</p> <p>④ 感染防止対策を踏まえて、状況に応じて行事の下見を進める。(各学部2回)</p>	<p>① マニュアルの一部見直しを図り、給食の運搬・片付けなど児童生徒も参加できた。(○)</p> <p>② 給食時と同様に、調理実習及び校外学習時のアレルギー調査の徹底を図った。修学旅行時に宿泊先でアレルギー対応食が適切に出されていないのを事前に発見することができた。(◎)</p> <p>③ 2名の研修が終了したが1名は看護師による最終の見極めが未終了(△)</p> <p>④ 行き先変更をすることはなかった。(○)</p>
3、働き方改革の観点から教職員の健康管理に取り組む	1. 各業務の見直しを行い、教職員の業務負担軽減を図る。	<p>(1) 教職員の業務削減を進める。</p> <p>① ICT機器の活用を進めて会議効率化を図り、会議時間の短縮を進める。</p> <p>② 会議等の資料のデジタル化を進め、教職員の印刷業務の軽減を図る。</p> <p>③ OneNoteの活用により職員朝礼の時間短縮・配布資料のデジタル化を図る。</p> <p>④ 教員の消毒作業や印刷作業の削減を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>① 職員会議のWEB開催・資料のデジタル化(10回)</p> <p>② 紙媒体での配布資料を削減し、電子配布80%以上をめざす。</p> <p>③ 職員朝礼時間10分以内、紙媒体の配布資料削減。</p> <p>④ SSS(2名)や学習支援員(3名)を活用し、校内の消毒作業・印刷業務を委託する。</p>	<p>① 職員会議のWEB開催及び資料のデジタル化はできた(10回)(○)</p> <p>② 企画運営委員会及び職員会議資料のデジタル化をすすめ、印刷業務の軽減はできた(90%)(◎)</p> <p>③ 職員朝礼は概ね5分以内で終わっている。配布資料はOneNoteへのデータ貼付けを原則としてできている。(◎)</p> <p>④ 消毒作業は円滑に進んだが、印刷は教職員で行った。(○)</p>

府立生野支援学校

<p>2. 健康を維持し働くことの楽しさや充実感を感じられる職場環境を構築する。</p>	<p>(1) 時間外勤務の縮減</p> <p>① 月に1回「ゆとりの日」を設けて定時に退勤できるようにする。</p> <p>② 週に1回「定時退庁日」を設けて19時には全員が退勤できるように、安全衛生委員会から定時退庁を呼びかける。</p> <p>(2) 校務分掌体制の見直しを進めて教職員の業務分担の平準化を進める。</p> <p>① 校務分掌検討委員会を開催し、各分掌における業務内容の見直しを図る。</p> <p>② デイサービスに関わる業務の見直しを図る。</p> <p>(3) 安全衛生委員会による教職員の健康で安全な労働環境の保全に努める。</p> <p>① 安全衛生委員会の定期開催を進める。</p> <p>② 腰痛予防の取り組みを進める。</p> <p>③ メンタルヘルスに関する取り組みを進める。</p> <p>④ 経験年数の少ない教員への研修や相談体制を整え、働くことの楽しさや充実感を感じられるよう職場環境を整える。</p>	<p>(1)</p> <p>① 時間外勤務 80 時間越えの者 0%を維持する[1名]</p> <p>② 「定時退庁日」の朝の連絡会で、呼びかけを毎週行う。</p> <p>(2)</p> <p>① 校務分掌検討委員会の実施(3回)</p> <p>② デイサービス担当のプロジェクトチームを立ち上げ、通学支援部の構想を進める。</p> <p>(3)</p> <p>① 安全衛生委員による定期的な校内巡視と点検を進める。(6回)[5回]</p> <p>② 集団での腰痛予防講座を開催し参加者数を増加する。 [R1:15名、R2:- R3:個人別相談7人]</p> <p>③ メンタルヘルス研修実施(1回)</p> <p>④ 校内初任期研修の実施。 8回[8回] 研究授業の相談支援。</p>	<p>① 一月一名のみ超えることがあったが、ほぼ0%であった。(△)</p> <p>② 安全衛生委員会から週に1回「定時退庁」と、月に1回「ゆとりの日」の呼びかけを実施できた。(○)</p> <p>① 実施回数は3回で次年度の分掌担当業務の見直しを行った。(○)</p> <p>② デイサービス検討委員会を立ち上げて、お迎え方法の策定と、事業所説明会にて説明を実施(1回) 分掌検討委員会では、通学支援部ではなく将来的に生活指導部への位置づけを進めることになった。(○)</p> <p>① 校内巡視をして点検(6回)をし、和式トイレの洋式化改修(12か所)を進めた。(◎)</p> <p>② 腰痛予防講座を開催し参加者数は10名であった。(○)</p> <p>③ メンタルヘルスについては実施できなかった。(△)</p> <p>④ 各初任者教員への助言を進めることができた。(7人:7回)(○) 初任者教員は1名退職したため対象者は7名となった。</p>
--	---	---	---